

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月27日

事業所名：十日町市発達支援センター

		チェック項目	取り組み状況・改善内容または改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	・利用人数が多い場合でも安全に活動できるよう、教室や設定を調整しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	・児童発達支援の指定基準に基づき、適正な職員配置となっています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、子どもの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	・事業所は全てバリアフリーになっています。 ・刺激が少ない環境を整え、視覚支援（絵カードや写真等）を活用し、子どもが自発的に行動できるよう工夫をしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	・子どもが使用する遊具や教材をこまめに消毒し、清潔に保持しています。 ・活動内容によって、パーティションの使用や遊具の配置を工夫しています。
業務改善	5	業務改善を進めるため、目標設定と振り返りに、広く職員が参画しているか	・各教室の年間計画に対して、事業所職員の他に臨床心理士、作業療法士、社会福祉士を交え、評価・見直しを実施しています（半年に1回）。 ・職員会議（月1回）や事業所担当打ち合わせ（月1回）を開催し、開催事業の目的や内容等について意見交換や情報共有しています。
	6	保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	・年1回保護者向けの評価を実施し、教室の活動内容やサービスに反映させています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	・年1回事業所の評価を実施し、教室の活動内容やサービスの見直し、改善に努めています。 ・結果については、おたよりや市のホームページで公開しています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	・毎年長岡療育園の作業療法士、言語聴覚士によるスーパーバイズを受けています（年4回）。 ・職員間で構音勉強会を実施し、指導力向上に努めています。 ・R5年度は言語聴覚士から言葉の訓練について直接指導を受ける機会を設定していく予定です。 ・外部研修は参加できる職員が限られますが、参加した職員が研修会内容を復命し、全員で共有できるように努めています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	・子どもの発達段階を標準化した質問紙や発達検査を通してアセスメントし、保護者のニーズを交えて個別支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	・遠城寺式発達検査質問紙、新版K式発達検査、WISC-IV、NCプログラム等を活用しています。
	11	個別支援計画には、子どもの支援に必要な目標と具体的な支援内容が設定されているか	・子どもの発達段階のアセスメントに基づき、目標と具体的な支援内容を設定しています。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われているか	・個別支援計画に沿った支援を実施しています。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	・各教室ごとにチームを編成し、主担当を中心に副担当の意見を取り入れながら活動プログラムを立案しています。
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	・子どもの発達段階に合わせ、活動プログラムに少しずつ変化（スモールステップ）をつけ、発展させています。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成しているか	・園生活や学校生活を見据え、個別活動と集団活動を合わせた個別支援計画を作成しています。
	16	支援開始前には職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	・日案を作成して確認しています。
	17	支援終了後には、職員間で打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	・職員間で時間を作り、振り返りを実施しています。
関係機関や保護者との連携	18	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	・毎回記録を作成し、次の支援に活かすようにしています。
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	・半年に1回モニタリングを実施し、個別支援計画を作成しています。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	・担当者が出席しています。
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	・関係機関と連携し、支援会議を行っています。
	22	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健機関、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行い、関係機関等の連絡体制を整えているか	・支援会議、主治医連絡等、必要時に連携した支援を行っています。医療機関の地域連携担当やリハビリ担当者が必要時に連絡が取れる体制が整っています。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えているか	・保護者の了解のもと、就園・就学移行支援会議を開催し、就園・就学先に支援経過と有効な支援方法を引き継いでいます。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・移行支援会議を開催し、情報共有や相互理解を図りました。今後も子どもがよりよい小学校生活を送れるよう、必要な支援を引き継いでいきます。

	チェック項目	取り組み状況・改善内容または改善目標	
25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡療育園等への視察や専門機関からスーパーバイズを受けるなどして、職員の資質向上に努めています。 ・今年度は外部のZOOM研修に参加する機会を設け、職員の積極的な受講に努めました。 	
26	自立支援協議会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援センターが自立支援協議会の子ども部会で事務局を担当し、参加しています。 	
27	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達状況や課題について、共通理解を持っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回子どもの様子や変化、具体的な支援方法を保護者に伝え、共通理解が深まるよう努めています。 	
28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度は、年5回ペアレントプログラム（未満児親子教室保護者対象）、年12回（各クラス3回ずつ）ペアレントトレーニング（年長保護者対象）を実施しました。また、年長児保護者を対象に「就学に向けた保護者研修会～就学に向けての心構え～」を開催しました。コロナの影響もあり、参加人数は少なめでしたが、次年度も場の提供を行い、保護者へ積極的に働きかけをしていきます。 ・各教室で「おしゃべり会」（年少児・年中児保護者対象）を開催し、保護者同士が気軽に情報交換ができる場を作っています。 ・保護者の対応力の向上や保護者同士のつながりを目指し、今後も実施していきます。 	
保護者への説明責任等	29	運営規定や利用者負担について丁寧な説明を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・初回契約時及び契約更新時に説明しています。今後も丁寧な説明を心掛けます。
	30	教室の内容や個別支援計画の支援内容を丁寧に説明し、保護者から同意を得ているか	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を用いて、担当者から具体的に説明しています。
	31	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の教室終了時や個別支援計画説明時の相談に応じ、助言・支援を行っています。
	32	保護者同士が話しやすい場の提供をしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の情報共有ができるよう、教室終了後も教室を開放しています。今後も保護者が話をしやすい場の提供や雰囲気作りを心掛けます。
	33	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・担当制で支援を行い、重要事項は児童発達支援管理責任者に報告・相談できる体制を整え、迅速かつ適切に対応しています。 ・事業所以外の苦情相談窓口も設置しています。
	34	定期的におたよりやホームページ等で、子どもの様子や行事予定、連絡体制、業務に関する自己評価の結果等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・おひさまだよりを2か月に1回発行し、子どもたちの様子や支援のポイント、行事予定等をお知らせしています。 ・ホームページにも研修会の案内等を掲載しています。 ・今後もおひさまだよりや玄関入口のお知らせボードを活用し、行事や重要事項等の周知を強化していきます。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報については、守秘義務に基づき適正な取り扱いを周知徹底しています。
	36	子どもや保護者に合わせて、親しみを持って対応しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせた対応に努めています。 ・子どもの様子に合わせて、言葉や文字だけでなく、絵や写真等も用いて情報伝達を行っています。
37	事業所の活動内容や行事を市民に広く周知し、地域に開かれた事業運営を図っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページを活用し、事業所の活動内容や行事を周知しています。 ・発達支援講演会を年1回開催し、市民の方々からも参加していただいています。 ・保育士や川西高等特別支援学校の実習生を受け入れ、事業所の取り組みを知ってもらう機会を作っています。 	
非常時等の対応	38	緊急対応や防犯、感染症対応について計画を立て、おたよりやホワイトボード等で保護者に周知・説明しているか。また定期的に避難・救出等の訓練を実施し、保護者に周知しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画及び災害時マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、マニュアルに基づいて対応することを初回契約時及び契約更新時に説明しています。 ・火災、地震、ガス漏れ、不審者対応の訓練を年3回実施し、避難経路や救出方法を確認し、緊急時に活動できるようにしています。また、嘔吐物処理手順を職員間で定期的に確認しています。 ・今後もおたよりや玄関入口に設置したお知らせボードで、訓練を実施したことをお知らせしていきます。
	39	事前に、子どもの健康状況（受診状況や食物アレルギー、てんかん・服薬有無等）を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業申込書の記入を通して、子どもの健康状態について保護者と確認しています。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告書を作成し、経年的に記録としてファイルに管理しており、活用しています。 ・今後の改善策等を検討し、職員回覧を通して周知して再発防止に努めています。
	41	虐待を防止するため、内部研修を含めた職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修や虐待防止に関する研修会に参加した職員による復命会を実施し、適切な対応ができるようにしています。
42	子どもが安全に活動に取組めるよう、すぐに介助ができる見守り体制や大型遊具の周囲にマットを敷く等の危険を回避するための対応をしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に活動に取り組めるよう、職員配置や環境を整えています。 	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った評価です。